

公益社団法人 日本水産学会
平成 27 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 27 年 12 月 5 日(土) 13 時 00 分～15 時 03 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2 号館 2 階 200A-2 会議室 (東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
総数 20 名、定足数 11 名
- 4 出席理事数 19 名
(本人出席) 荒井修亮、飯田貴次、伊藤文成、大越和加、香川浩彦、金子豊二、木島明博、
嵯峨直恆、佐竹幹雄、青海忠久、関 伸吾、東海 正、時村宗春、古谷 研、
松山倫也、山下 洋、渡邊良朗、渡部終五
(途中出席) 荒井克俊(決議事項 第 3 号議案「会費免除承認」審議中の 13 時 13 分に着席)
(監事出席) 青木一郎、瀬川 進
(幹事出席) 荒川久幸、石田真巳、鈴木直樹、鈴木美和、久田 孝

5 議 案

- 決議事項
- | | |
|---------|---|
| 第 1 号議案 | 「大会規程の一部改正」の件 |
| 第 2 号議案 | 「平成 27 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件 |
| 第 3 号議案 | 「会費免除承認」の件 |
| 第 4 号議案 | 「寄附金の使途」の件 |
| 第 5 号議案 | 「謝金に関する申し合わせ」の件 |
| 第 6 号議案 | 「Fisheries Science 82 巻における会員販売促進の継続」の件 |
| 第 7 号議案 | 「平成 28 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件 |
| 第 8 号議案 | 「平成 28 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件 |
| 第 9 号議案 | 「入会承認」の件 |

- 報告事項 第 5 回理事会以降の職務執行の状況
その他確認事項

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

渡部会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「大会規程の一部改正」の件(別紙 1)

金子総務担当理事より、大会規程の一部改正について説明があった。審議の結果、出席理事
全員一致で別紙の通り可決した。

第 2 号議案 「平成 27 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

荒井(克)学会賞担当理事より、平成 27 年 9 月 22 日(火)に開催された学会賞選考委員会にお
いて審議した平成 27 年度日本水産学会各賞の受賞候補者について原案の説明があった。

本議案について以下の質疑応答があった。

金子理事 「萩原篤志氏のタイトルの『餌料プランクトン学…に関する研究』という表現に違和感
があるのではないか。」

伊藤理事 「受賞理由の内容から、『餌料プランクトン学の確立…に関する研究』とすればよいのではないか。」

東海理事 「学問体系を発展させるような貢献は、従前、功績賞で取り上げることが多く、学会賞は学術的に優れている点を強調するタイトルの方が望ましいのではないか。」

古谷理事 「『人工種苗生産技術の確立』が重要ではないか。」

青海理事 「『海産プランクトンの実験飼育系の確立』が重要で、それを増養殖へ応用したと表現することができるのではないか。」

飯田理事 「受賞者は海産プランクトンだけでなく、ミジンコ類も研究している。」

荒井(克)理事 「青海理事の案は、受賞者の研究の始まりから増養殖への貢献までを的確に表していると感じる。これを基にして『餌料プランクトンの実験飼育系の確立とその応用に関する研究』としたい。」

審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

日本水産学会賞

北田修一 「種苗放流の効果と野生集団への影響解明に関する研究」

萩原篤志 「餌料プランクトンの実験飼育系の確立とその応用に関する研究」

日本水産学会功績賞

有元貴文 「漁業技術のための魚類の行動生理学に関する研究」

和田時夫 「水産資源の変動機構と管理に関する研究」

水産学進歩賞

栗田 豊 「漁業資源変動に及ぼす母性効果に関する繁殖特性研究」

里見正隆 「水産発酵食品の微生物に関する研究」

高橋明義 「魚類の体色調節関連下垂体ホルモンの基礎と応用に関する研究」

高見秀輝 「アワビの資源生態に関する研究」

中野俊樹 「魚類におけるストレスとその防御に関する研究」

水産学奨励賞

帰山秀樹 「水産生態系への放射性物質拡散の影響評価に関する研究」

笠井久会 「魚類防疫による生産安定化と漁獲物の衛生管理に関する研究」

加藤豪司 「防除が難しい魚類細菌性感染症に対するワクチンの開発」

野村和晴 「ニホンウナギの遺伝育種に関する基礎研究」

山崎康裕 「海産微細藻類の種間相互作用と餌料培養への応用に関する研究」

和田敏裕 「希少なカレイ類の生態解明と栽培漁業技術の向上に関する研究」

水産学技術賞

該当者なし

第3号議案 「会費免除承認」の件

金子総務担当理事より、木原興平、小松 博、出口 真、佐藤陽一、三本菅善昭、内藤靖彦、西岡不二男、村田 修、矢野友紀、若林久嗣、各会員の会員に関する規則第5条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。審議の結果、申請のあった10名の会員の会費を平成28年度から免除することを出席理事全員一致で原案通り可決した。

第4号議案 「寄附金の使途」の件(別紙2)

山下財務担当理事より、3名の正会員から寄附があったことが報告され、その使途に使用について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第5号議案 「謝金に関する申し合わせ」の件(別紙3)

金子総務担当理事より、従来、本学会に規定がなかった講演謝金の支給額に関する申し合わせについて説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

本議案について次の質疑応答があった。

古谷理事 「一般講演と特別講演を分ける基準は、講演者が著名人の場合なのか、講演内容が特別な場合なのか。」

青木監事 「どのような人を指すのか著名人に説明を加えてはどうか。」

金子理事 「講演の大きな区分による支給額の基準を提案したが、考慮が必要なケースは会長と総務担当理事が協議して決められる案になっている。」

第6号議案 「Fisheries Science 82 巻における会員販売促進の継続」の件

金子総務担当理事より、Fisheries Science 誌 82 巻における会員購読促進の継続について説明があった。審議の結果、会員購読促進の継続を出席理事全員一致で可決した。

第7号議案 「平成 28 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

荒井(克)担当理事より、平成 27 年 9 月 22 日(火)に開催された学会賞選考委員会において審議した標記受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第8号議案 「平成 28 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件

金子総務担当理事より、標記の評議員及び運営委員の選出について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

評議員 選出を総務担当理事に一任

運営委員 伊藤直樹

第9号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

第5回理事会以降の職務執行の状況

・会長

渡部会長より、次期執行部と交替があるので、引き継ぎの協力要請があった。

・庶務関係

1) 平成 28・29 年度支部幹事選挙結果について

金子担当理事より、平成 28・29 年度支部幹事選挙結果について報告があった。

2) 平成 28・29 年度役員候補者(理事及び監事)選挙結果について

金子担当理事より、平成 28・29 年度役員(理事及び監事)候補者選挙結果について報告があった。

3) 資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について

金子担当理事より、亀井和泉氏(正会員、平成 26 年度資格喪失)及び四宮明彦氏(正会員、平成 26 年度資格喪失)の 2 名が会費納入により退会者へ変更された旨報告があった。

4) 協賛について

金子担当理事より、次の 4 件の協賛の報告があった。これらは、共催、協賛、後援の取り扱い申し合わせ 3)を適用した。

海洋調査技術学会第 27 回研究成果発表会

主催 海洋調査技術学会

協賛 海洋海底工学フォーラム 他 18 団体

日程 平成 27 年 11 月 12 日(木)・13 日(金)

場所 海上保安庁海洋情報部 10 階国際会議室(東京都江東区)

希望 協賛

負担金 なし

第 18 回マリンバイオテクノロジー学会大会

主催 マリンバイオテクノロジー学会

協賛 日本化学会 他 24 団体(予定)
日程 平成 28 年 5 月 28 日(土)・29 日(日)
場所 北海道大学函館キャンパス(北海道函館市)
希望 協賛
負担金 なし

第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会
協賛 応用物理学会 他 61 学協会(予定)
日程 平成 28 年 7 月
場所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)
希望 協賛
負担金 なし

Techno-Ocean2016

主催 The Consortium of the Japanese Organizers for Techno-Ocean 2016, IEEE/OES, MTS
協賛 日本物理学会 他 73 団体(予定)
日程 平成 28 年 10 月 6 日(木)~8 日(土)
場所 神戸国際会議場(兵庫県神戸市)
希望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

東海担当理事より、次の報告があった。平成 27 年 9 月 24 日(木)に第 6 回、同年 11 月 5 日(木)に第 7 回の企画広報委員会が開催された。和文の特集記事の編集作業を行うほか、企画広報委員会が扱う特集記事についての編集方針の議論が続いている。現在、編集方針に関する詳細な資料の作成中で次回の理事会で披露して意見を伺いたい。

・財務関係

山下担当理事より、小川 健会員と東海 正会員より寄附金を受け取ったとの報告があった。

・編集関係

古谷担当理事より、次の報告があった。

- 1) 2016 年度 Fisheries Science 82 巻のカバーページの写真とデザインが紹介された。
- 2) 平成 27 年度秋季大会中の編集委員会で、日本水産学会誌の編集に関して以下のことが決まった。論文賞の選考手順について、第一段選考の社会科学を舞田副委員長、増養殖を潮副委員長が担当することになった。論文賞は 1 月の第 4 回全体会議で決めて、2 月の理事会の議案とする予定である。日本水産学会誌の pdf 早期公開を JST で今月から開始する。海外エディターとして、社会科学で H. Uchida が加わる。また、出版倫理指針、特許公報の投稿への対応、編集幹事・校正係を海洋大以外に協力依頼することについて検討中である。

- 3) 本学会からの申し入れにも関わらず、Fisheries Science と非常に紛らわしい名称の Journal of Fisheries Science からまた原稿募集の通知が来た。平成 27 年 11 月に渡部会長から、その後 Springer から再度、抗議の申し入れをし、現在は原稿募集が止まっている。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、平成 27 年 9 月 22 日(火)に開催された学会賞選考委員会において第 2 号議案で説明した各賞受賞候補者を選出し、推薦したとの報告があった。

・シンポジウム関係

松山担当理事より、平成 27 年 11 月 20 日(金)に第 4 回メール会議を行い、平成 28 年度春季大会中に次のシンポジウム 4 件、ミニシンポジウム 3 件が開催予定である旨報告があった。

シンポジウム(平成 28 年 3 月 26 日(土))

- 相崎(福山大)ら 3 名 “魚類人工種苗の形態異常 これまでとこれから ”
庄司(広島大)ら 6 名 “地下水、湧水を介した海陸のつながり 沿岸域における水産資源の持続的利用と地域社会 ”
岡崎(海洋大)ら 5 名 “水産物にかかわる冷凍研究の課題と展望 ”
田中(岩手大)ら 3 名 “三陸沿岸における水産業の復興と新たな水産人材育成 三大学連携三陸水産研究教育拠点形成事業の成果と今後の展望 ”

ミニシンポジウム(平成 28 年 3 月 30 日(水))

- 石川(地球研)ら 4 名 “エリア・ケア・アビリティ・アプローチによる漁村開発 ”
市野川(水研センター)ら 2 名 “漁業資源の今とこれから ”
海部(中央大)ら 2 名(若手の会が共催) “水産資源の持続的利用と認証制度 東京オリンピックで日本の水産物を提供できるのか ”

・出版関係

木島担当理事より、平成 28 年 1 月 8 日(金)に出版委員会が開催予定であるとの報告があった。

・水産技術誌監修関係

伊藤担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 8 月 31 日(月)に水産技術第 8 巻 1 号(原著論文 4、短報 2)を刊行した。
- 2) 平成 27 年 12 月 18 日(金)に水産総合研究センター本部会議室で、平成 27 年度第 2 回企画・編集委員会が開催予定である。議題は、投稿区分の改訂について、第 8 巻 2 号(アサリ垂下養殖特集号)と 3 号の掲載論文等について、今後の編集方針についての予定である。
- 3) 第 8 巻 2 号と 3 号は、平成 28 年 2 月に 2 号、同年 3 月に 3 号が刊行の予定である。

・国際交流関係

青海担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 10 月 30 日(金)に釜山(韓国)で開催された韓国水産科学会に渡部会長を派遣した。
- 2) 平成 27 年 11 月 4 日(水)～6 日(金)に浙江省(中国)で開催された中国水産学会大会に渡部会長と胡会員を派遣した。
- 3) 第 3 回世界水産学会賞への推薦を国際交流委員会委員に依頼した。

・水産教育関係

荒井(克)担当理事より、平成 27 年 9 月 22 日(火)に日本水産学会秋季大会においてミニシンポジウム「水産分野のキャリア教育:次世代育成の緊急性と今後の課題」が実施され、6 演題の発表があり、参加者は 30 名だったとの報告があった。

・水産政策関係

山下担当理事より、平成 27 年 11 月 16 日(月)に東大農学部で「国家管轄権の領域を超えた海の生物多様性に関する勉強会」が開催されたとの報告があった。

・漁業・資源管理関係

渡邊担当理事より、平成 27 年 9 月 22 日(月)に東北大学川内キャンパスで漁業懇話会委員会が開催され、懇話会の奨励賞の公募が行われ、選考が最終段階まで進んでいるとの報告があった。

・水産利用関係

佐竹担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 11 月 5 日(木)に第 2 回水産利用懇話会委員会と第 1 回水産利用懇話会講演会「強制表示食品」が開催された。
- 2) 次年度から、委員会を 3 回から 2 回に減らして春と秋に講演会と委員会を同日開催することになった。次回は平成 28 年 2 月で、講演会のテーマは震災関係を予定している。

・水産増殖関係

木島担当理事より、平成 27 年 9 月 25 日(金)に東北大学川内キャンパスにおいて水産増殖懇話会第 1 回委員会と水産増殖懇話会第 2 回講演会 “ 水産増養殖で地域興し～基礎研究から産業応用へ ” を開催したとの報告があった。この中で、前回の理事会で問題となったミトコンドリアDNA による種判別方法に関する特許の件を発言した。次回の委員会は平成 27 年 3 月の予定である。

・水圏環境関係

山下担当理事より、次の報告あった。

- 1) 平成 27 年 9 月 25 日(金)に東北大学川内キャンパスで水産環境保全委員会研究会としてミニシンポジウム “ 東北・北海道沿岸における東日本大震災以後の貝毒の問題 ” が開催された。
- 2) 平成 27 年 1 月 9 日(土)に東京海洋大学において沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム “ 海岸環境の保全・再生と防災・減災 ” を企画中である。
- 3) 次回の春季大会ではシンポジウム “ 栄養塩添加による漁場生産力の向上 ” を開催予定である。

・男女共同参画関係

大越担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 10 月 17 日に開催された第 13 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加し、ポスター発表した。
- 2) 平成 28 年度の春季大会会期中の一般講演日の昼休みに談話会(ランチョンセミナー)の開催を計画している。これは平成 27 年 9 月 23 日の男女共同参画推進委員会で開催が企画された談話会で、50 名程の参加者により男女共同参画の意見交換を行う場としたい。ランチョンセミナーとするための開催経費の予算措置をお願いしたい。

また、金子理事(男女共同参画推進委員会委員)から次の追加説明があった。前回の春季大会では、男女共同参画についてのアンケート調査結果をパンフレットとクリアファイルにして配布する活動を行った。次回の春季大会では一歩進めて、ランチョンセミナーのような談話会で男女共同参画について語り合う機会を作ることを企画している。男女共同参画という性質上、すべての会員が対象となることから、弁当の無償提供によって不公平感が生じることはないと考えている。

本報告に対して次の発言があった。

時村理事 「春季大会実行委員会にも談話会開催を事前に連絡するように。」

・社会連携関係

嵯峨担当理事 特になし

・将来計画関係

古谷担当理事 特になし

・北海道支部、地域連携関係

嵯峨担当理事より、平成 27 年 12 月 18 日(金)・19 日(土)に東京農業大学(北海道網走市)で北海道支部大会が開催されるとの報告があった。

・東北支部、地域連携関係

渡部会長より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 10 月 29 日(木)に宮城県立水産高校で開催された第 24 回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表会に参加し、最優秀賞の秋田県立男鹿海洋高等学校へ東北支部長奨励賞と副賞を贈呈して業績を表彰した。
- 2) 平成 28 年 2 月 5 日(金)に東北大学農学部において東北支部例会を開催予定である。

・関東支部、地域連携関係

時村担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 10 月 27 日(火)に東京海洋大学において、関東支部シンポジウム “ キンメダイ資源研究の現状と将来 ” を開催し漁業関係者 29 名を含む 77 名の参加者があった。内容としては、各都県の漁業動向と資源管理の解説、標識放流結果のまとめ、及び、世界のキンメダイ漁業の紹介等を元に今後の資源研究に必要な方向を討論した。
- 2) 平成 28 年度春季大会の準備のため、平成 27 年 10 月 20 日(火)にトーヨー企画と打合せし、学会誌 11 月号に掲載案内を掲載した。平成 27 年 12 月半ばに HP で申込開始、平成 28 年 1 月 29 日(金)に発表申込〆切、同年 2 月 19 日(金)に参加申込〆切の予定である。また、若手の会が、水産学若手の会シンポジウムとナイトポスターセッションの開催を予定している。

・中部支部 地域連携関係

飯田担当理事より、次の報告があった。平成 27 年 11 月 21 日(土)に東海大学海洋学部(静岡県清水市)において支部大会を開催した。会員 29 名、非会員 35 名、計 64 名の参加者があり、ミニシンポジウムと研究発表を行うとともに支部幹事会と支部総会も開催した。支部総会では、支部長賞と優秀発表賞の表彰を行い、支部長賞を受賞した高木氏(静岡県水産技術研究所)が受賞講演を行った。

・近畿支部 地域連携関係

荒井(修)担当理事より、次の報告があった。平成 27 年 12 月 13 日(日)に近畿支部幹事会と近畿支部後期例会を実施する予定である。後期例会では、特別講演 “ 先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と共有したい ” 2 題と研究発表(10 件程度)を行い、若手に対して優秀発表賞の表彰を行う。

・中国・四国支部 地域連携関係

関担当理事より、次の報告があった。香川大学の共催、香川県の後援を得て、平成 27 年 10 月 24 日(土)・25 日(日)に香川大学農学部で支部例会を実施した。24 日は支部大会及び支部総会を行い、会員約 50 名、高校生約 20 名、計約 70 名の参加者があった。約 20 題の研究発表があり、優秀発表賞を選出した。高校生によるポスター発表では 10 題余りの発表があり、優秀ポスター賞を選出した。25 日はミニシンポジウム “ 瀬戸内海の環境を考える ” を実施し、約 80 名の参加者があった。

・九州支部 地域連携関係

香川担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 11 月 7 日(土)に宮崎大学農学部で支部幹事会、支部総会、若手の会、および一般研究発表会(ポスター)を実施するとともに、高校生による研究発表会および表彰式を行った。54 名の参加者があった。若手の会では “ 海洋学者を目指す君たちへ海外で活躍するためのグローバル人材とは ” というテーマで 5 題の講演を実施し、一般研究発表では 15 件のポスター発表があった。高校生による研究発表は 2 件あり、1 名に学生による優秀発表賞を授与した。
- 2) 平成 27 年 11 月 8 日(日)に支部例会、およびシンポジウム “ 九州における水産物の高付加価値化の取組と販売戦力 ” を実施した。シンポジウムには 8 名の講演を行い、93 名の参加者があった。

・英文書籍監修委員会(特別委員会)

東海担当理事より、英文書籍 Fisheries Science Series について次の報告があった。

- 1) No. 1 になる閉鎖循環系に関するもの(volume editor 竹内会員)は、原稿の 1 回目の査読を終えて、現在、海外の査読者からのコメントに volume editor が対応している。series editor 會田委員は内容を確認済なので、現在の作業が済めば刊行に向う。No. 2 になる資源関係のもの(volume editor 青木会員)は、広範な内容なので多数の人に査読依頼したが、国内 1 名、海外 2 名の査読者が見つかり、これから査読が進む。No. 3 になるシオミズツボワムシに関

するもの (volume editor 萩原会員) は、査読に入っている。

- 1 冊目が刊行された段階で、英文書籍監修委員会の形態を特別委員会のままにするかの検討、規則の整備等を行って、次が刊行できるような体制を作っていくたい。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会 (特別委員会)

渡部会長から、以下の報告があった。平成 27 年 9 月 21 日 (月) に東北大学雨宮キャンパスで日本水産学会理事会特別シンポジウム「東北の海は今、震災後 4 年間の研究成果と漁業復興」を開催した。前回の理事会での報告の後、日本水産学会誌に本シンポジウムの記事を発表するために企画責任者の一人である木島理事を中心にまとめる作業をしている。できれば、次回の理事会より前に委員会を開催し、次期の執行部に引き継げるようにしたい。

・水産学若手の会 (特別委員会)

渡部会長より、次回の春季大会において若手の会が担当している企画があるので参照してほしいとの依頼があった。

・日本水産学会創立 85 周年記念事業委員会 (特別委員会)

渡部会長より、本日午前に開催された標記委員会での内容について次の報告があった。

- 1) 今回の委員会には、実行委員会の杉田治男プログラム委員長にもオブザーバー参加してもらい、記念事業委員会を構成する各委員会の進捗状況の報告があった。
- 2) 国際シンポジウム実行委員会では、国際シンポジウムの HP を近々アップする予定である。
- 3) 資料集編纂委員会では、85 年間の活動内容を全て収めるため、シンポジウム終了の 1 年後に資料集を出す予定である。
- 4) 研究の動向編集委員会では、現在、各分野の担当者に依頼しているところである。
- 5) デジタル版水産学用語辞典編集委員会では、辞典の名称を『水産学用語辞典』とし、10 分野と生物種の計 11 グループに分かれて作業をしている。作業内容として、既存の辞典の用語の振り分け、語句の見直し、追加する用語の選択等を行っている。デジタル版のため、図を付けることも検討している。記念品として配る印刷物も作るが、簡略化した内容にしたい。実際の編集作業を行っている約 30 名は執筆者として辞典に名前を載せ、執筆者とは別に 10 名ほどの編集委員会を組織する予定である。
- 6) 記念事業全体の資料を 3 月の理事会に提出して次期執行部に引き継ぎたい。

続いて青海副会長より、記念式典実行委員会・募金委員会の報告があった。記念式典実行委員会では、会場を確保した状態である。募金委員会では、目論見書に従って募金趣意書を作成中である。全国の研究機関・企業で 85 周年記念事業を支えるため、各支部の大学・研究機関から募金委員の選出するように理事会に依頼があった。新執行部が始まる 4 月から実際の募金活動を開始するため、3 月の理事会までに募金委員を選出してほしい。

また渡部会長より、会計報告などの残務整理を、記念式典実行委員会または国際シンポジウム実行委員会に依頼することを検討しているとの追加説明があった。

・財務検討委員会 (特別委員会)

山下担当理事 特になし

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海担当理事より、次の報告があった。平成 27 年 11 月 27 日 (金) に日本学術会議講堂において日本学術会議 食糧科学委員会水産学分科会が主催したシンポジウム「東日本大震災による原子力発電所事故に伴う魚介類の放射能汚染の問題と今後の展望」が開催された。プログラム内容は、研究者の発表だけでなく、東京電力、福島県漁連、サミット (スーパーマーケット)、NHK、マスコミ等からの講演もあった。参加者は 192 名 (内、水産学会会員 37 名、また所属は大学研究者 57 名、企業団体 91 名、官庁・県等 22 名、個人 22 名) だった。開催にあたり、日本水産学会は 10 団体から寄附を頂き、これによって要旨集を印刷して配布した。

その他確認事項

・事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

東海総務担当理事より、平成27年度の決算処理等の日程について説明があり、日程に沿って各支部、懇話会及び委員会是对処して欲しいとの依頼があった。

・引継ぎ事項について

渡部会長より、今年度末で全ての理事が交替するので、次年度への引継ぎ事項を十分に吟味して漏れのないように整理し、正の担当理事が提出してほしいとの依頼があった。引継ぎ事項の提出は2月末日を〆切とし、一度チェックして必要なら修正する。

・次回の理事会について

金子総務担当理事より、次回の理事会は2月6日(土)13時から、国立大学法人東京海洋大学で開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時03分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成27年12月5日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事